〔大会記録〕ワークショップ

立命館の「知」の財産

――資料発掘・整理とその研究――

大坪　舞

立命館大学（以下、本学）には貴重な資料が数多く所蔵されている。

図書館に蔵される西園寺文庫は、西園寺公望に寄贈された文献である。『立命館大学図書館蔵西園寺文庫目録』によると、①西園寺公望自筆書簡七一通をはじめ西園寺宛の書簡なども含む西園寺公望関係文書、②政治・社会思想に関わる西園寺がみずから読み、座右に置いたと考えられる書目、③西園寺みずからの文学・宗教・芸術などへの関心を示す書目、④宮中儀式書や、家業とした琵琶・鷹、あるいは宮中歌会始に関する西園寺家に代々受け継がれてきた書目に大別される。[1] 特に④に含まれる西園寺家関連書目は近年更なる高まりを見せつつある、公家文庫研究の一環としても注目される。

同じく図書館には、明治以降の韻文研究において貴重な資料を多く蔵する白楊荘文庫も設置される。本学教授であった小泉苳三が生涯にわたって収集した歌書を中心としたコレクションであり、近代短歌史を概観するために不可欠な資料群である。

さらに、人文系文献資料室には、本学教授であった後藤丹治旧蔵本を中心とする江戸期版本などの古典籍や、明治の小説家である山田美妙旧蔵書などの研究資料が蔵される。

これらの豊富な資料は学部生・院生の授業をはじめ、学内および学外の研究者による研究会などにより緻密な調査・研究が行われてきた。

上記資料の一部は、国文学研究資料館による調査、およびマイクロフィルム撮影がなされ、内外の研究に資されてきた。加えて、本学アート・リサーチセンターは、江戸戯作を中心とする林美一コレクション、古筆・絵画・宗教関連書・染織などの藤井永観文庫、俳書と周辺資料が中心である桜井コレクション（桜井武次郎旧蔵）などの寄贈資料を管理し、海外の研究機関の資料などとともに、前記本学資料もデジタル資料として公開している。

二〇一四年六月八日に開催した日本文学会創立六〇周年記念大

園寺文庫目録』立命館大学図書館、一九九〇年一〇月）。

（おおつぼ・まい　本学博士後期課程）

会の中で、若手研究者により本学所蔵資料の研究・公開をテーマとしたワークショップを行った。パネリスト、及び報告題目は以下の通り。

李増先（立命館大学博士後期課程）「資料の収集とその活用―アート・リサーチセンターの事例―」

武田悠希（立命館大学博士後期課程）「明治・大正期貴重文学資料の収集と研究活動」

白井かおり（立命館大学研修生）「資料のデジタル化から出版まで―貴司山治日記を事例に―」

各パネリストの報告については後掲の論考を参照されたい。

会場も含めた議論の中では、諸先生方より報告の際見落していた資料群の指摘（前掲・後藤丹治旧蔵書）や、伝来事情が明文化されていなかった各コレクションの来歴について解説いただいた。

各パネリストの報告は、デジタル化された資料群が中心であったが、これを踏まえて近年各機関で進められるウェブ上の公開、これに対して出版の在り方などの観点からも意見が交わされた。報告はいずれも国文学の伝統的な研究手法と、近年進められるデジタル化の観点を踏まえたものであり、デジタル時代における研究方針として示唆的であった。

注

（1）鈴木良「西園寺文庫について」（『立命館大学図書館蔵西